



### 子どもの治療に付き添う家族のための滞在施設

ドナルド・マクドナルド・ハウスは、子どもの治療に付き添う家族のための滞在施設。「わが家のようにくつろげる第二の家」として、日常生活がスムーズにおくれるように、自炊ができるキッチンやリビング、ダイニング、ランドリーやプレイルームを完備し、プライバシーを守るように配慮したベツルームも用意されている。家族の負担を考え、1人1日1,000円ほどで利用できる。

最初のドナルド・マクドナルド・ハウスは1974年、米国フィラデルフィアで開設された。以来、49の国と地域に383カ所開設されている。日本では、2001年にドナルド・マクドナルド・ハウス せたがや(せたがやハウス)が開設され、現在は国内に12カ所ある。公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパンが施設を建設し、ボランティアによって運営されている。

国立成育医療研究センターに隣接するせたがやハウスは、今年で

22年目を迎えた。小児医療の基幹病院である国立成育医療研究センターには、日本全国、さらには海外からも患者がやってくる。ハウスマネジャーの大野一美さんは「病院は病気の治療をしますが、私たちは患者さんと家族を間接的にサポートしています」という。

運営の費用は企業や個人からの寄付で賄われており、利用する家族への対応、日々のハウスキーピングやメンテナンスはすべてボランティアが担っている。せたがやハウスでは、現在、152人のボランティアが登録しており、午前、午後、夕方、夜のシフトで24時間、365日稼働を続けている。コロナ禍も感染予防対策をしながら運営を止めることなく家族を支えてきた。

22年の活動の中で、設立当初からボランティアを続けている人もいる。また、かつて入院していた子どもが大人になり、寄付やボランティアとして支援する側にまわるという循環も生まれている。最近では、医学や看護を学ぶ学生を中心に大学生ボランティアが増えているという。